

地球科学教材としてのパニック映画

Disaster films as educational materials in geosciences

郭 資敏 [1]; 畠山 唯達 [2]; 栗田 敬 [3]

Tsubin Kaku[1]; Tadahiro Hatakeyama[2]; Kei Kurita[3]

[1] なし; [2] 岡山理大・情報処理センター; [3] 東大・地震研

[1] none; [2] IPC, Okayama University of Science; [3] ERI, Univ. of Tokyo

最近、自然科学現象(小惑星の地球への衝突、火山噴火、気象災害など)を背景にしたいわゆるパニック映画がいくつか公開され、反響を呼んでいる。これらの映画はCG技術の発達のおかげで、その扱う現象の表現も現実近く(誰も見たことがない現象もあるが)、視覚的に訴えてくるものとなっている。また昔と違い、多くの「自然現象パニック映画」では実際に地球惑星科学者が監修につき科学的考証をきちんとしているので、頭からSFと決めつけられなくなってきた。

そこで我々は、一般向け映画としてビデオやDVDなどで比較的入手もしやすいこれらの映画を、教材として用いて生徒に自然科学現象を理解させたり、一般に地球惑星科学を広める材料にできないかと考えた。もちろん、ストーリー構成上の都合、科学的根拠のない要素も混ざっていることは多々見受けられる。それらを考慮しつつ、自然現象を生徒や学生に伝える手法を考察する。

小学生や中学生を対象にする場合は、現象そのものに興味を抱いてもらうこと、および、このような人間にとってはパニックになることがらも地球の歴史の上ではしょっちゅう起こる現象であることを説明するために使用したい。また、ある程度地学をかじった、またはこれから専攻しようとする高校生や大学生に対しては、科学的要素と非科学的要素を選別させる教材、あるいは自然現象の素過程をどれだけとらえているか考察させる材料にしたい。俎上に乗せる映画は以下のものである。

Twister (1996)

Dante's Peak (1997)

Volcano (1997)

Armageddon (1998)

Deep Impact (1998)

The Core (2003)

Day After Tomorrow (2004)